

社会福祉を含む対人サービス領域の事業評価手法に関する研究

—事業評価にプログラム評価の理論と方法論を用いた事業評価手法の開発—

○ 日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程 新藤 健太 (8608)
大島巖 (日本社会事業大学・228)、鴨澤小織 (日本社会事業大学社会事業研究所・7971)、
於保真理 (日本社会事業大学・2793)、方真雅 (日本社会事業大学・8609)、益子徹 (日本社会事業大学・8294)、
塩津博康 (高崎健康福祉大学・8497)、村里優 (日本社会事業大学・8935)、植村英晴 (日本社会事業大学・4001)

キーワード：事業評価手法、プログラム評価の理論と方法、実践家参画型評価

1. 研究目的

わが国の古い社会福祉事業は、社会の必要性に応える形で民間から展開され、制度化されたものが多い。例えば、石井十次の岡山孤児院(1887)、石井亮一の滝乃川学園(1891)、留岡幸助の家庭学校(1899)、片山潜のキングスレー館(1897)などもこれに当たる(大久保 2014)。これらを実践現場発のボトムアップ型事業とすると、近年は先に制度が作られ、実践現場へと事業枠組みが提示されるトップダウン型事業が多い。

このような状況の中、既存の福祉枠組みでは対応できない多様なニーズについて、民間の創意工夫の活動を「助成」という形で支援する公的、および、民間の団体も多い。これら助成事業は、その必要性や有効性が認められた場合、行く行くは、制度モデルへと発展し、公的な事業として全国の必要な地域、実践現場へと普及していくことが求められる。

例えば、他領域であるが、WKKF(W.Kケログ財団)は、事業評価のための実用的で段階的なマニュアルである「評価ハンドブック」を作成し、事業戦略を整理する「プログラムロジックモデル」の概念とその応用方法を紹介した(WKKF 1998)。しかし、わが国の社会福祉分野における助成事業評価について、事業戦略を整理し、その有効性を検証するとともに、制度モデル等への普及可能性について評価する事業評価手法は見当たらない。

そこで、本研究では、報告者が所属する助成事業評価研究チーム(以下、研究チーム)(研究代表 大島巖)が行う、A財団助成事業評価の取り組みを取り上げ、助成事業の効果的な事業戦略(以下、効果モデル)を整理し、制度等への普及可能性について評価するための事業評価手法について、その枠組みを提示することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

本研究ではまず、社会福祉を含む対人サービス領域における効果的な事業評価手法の枠組みとして、世界的に発展しつつあるプログラム評価の理論と方法論(Rossiら 2004)を用いるとともに、実践家参画型効果モデル形成評価のアプローチ法である「プログラム理論・エビデンス・実践間の円環的対話による効果的プログラムモデル形成のためのアプロ

一手法（CD-TEP 評価アプローチ法）（大島ら 2010）」を用いた。そして、この CD-TEP 評価アプローチ法を用いて行った 2012 年度から 2014 年度までの 3 年間の助成事業評価を振り返り、他領域や海外の事業評価手法と比較することで、効果的な事業評価手法の方法論について考察した。

3. 倫理的配慮

本報告に際しては、日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき構成した。

4. 研究結果

研究チームが行った、2012 年度から 2014 年度までの 3 年間の助成事業評価を振り返り、①効果モデル改善アプローチの妥当性、②実施・普及モデルの妥当性、③事業成果の適切性、④実施プロセスの適切性、⑤持続性・自立発展性という 5 つの評価視点ごと、評価視点相互の関連性の中で、その有用性を確認した。さらに、他領域や海外の事業評価手法との比較を行うことで、この CD-TEP 評価アプローチ法を用いた助成事業評価手法をより効果的な枠組みへと発展させるための示唆を得た。

5. 考察

本研究の結果から、CD-TEP 評価アプローチ法を用いながら、助成事業の効果モデルを整理し、その効果モデルをより発展させるための仕組みを提示するとともに、制度等への普及可能性について評価するための効果的な助成事業評価手法の枠組みが整理された。

今後は、研究チームが事業評価を行った助成事業の追跡評価、評価専門家を対象にした CD-TEP 評価アプローチ法を用いた助成事業評価手法の提示と意見交換等を通し、より効果的な枠組みへと発展させるとともに、ガイドライン等へと整理することが必要である。

ⁱ 例えば、わが国では、独立行政法人福祉医療機構（WAM）や日本財団、三菱財団、トヨタ財団、みずほ財団など、多数の助成団体がある。

参考文献：

大久保秀子：新・社会福祉とは何か，中央法規，(2014)。

大島巖・他：CD-TEP | 円環的対話型評価アプローチ法実施ガイド，平成 22 年度文部科学省・科学研究費補助金基盤研究 A「プログラム評価理論・方法論を用いた効果的な福祉実践モデル構築へのアプローチ法開発」報告書，<<http://cd-tep.com/>> (2010)。

Rossi, P. H, Lipsey, M. W. and Freeman, H. E. : Evaluation – A systematic approach, 7th Ed, Sage Publication. (2004) (=2005, 大島巖・平岡公一・森俊夫・他：プログラム評価の理論と方法；システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド，日本評論社)。

W. K. Kellogg Foundation : Logic Model Development Guide (1998) (=2003, (財) 農林水産奨励会農林水産政策情報センター：ロジックモデル策定ガイド)